

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071500930
法人名	株式会社 ゆうわ
事業所名	グループホーム ユウワ
所在地	福岡県大牟田市出雲町1番地15 (電話) 0944-55-1117

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	平成19年9月14日

【情報提供票より】(平成19年7月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 12年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 14.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成19年7月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田共立病院・中友診療所・おおの歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市庁舎がすぐ近くという市の中心部に位置している事業所は、ホテルをリフォームした洋風の建物で高台にある。ホールから見る眺望は大変良く、玄関横の緑の木々・季節の花々のプランターは周囲の街並みによく調和し、親しみが持てる。利用者の共用空間のホールは広くゆとりがあり、利用者と職員とで協同で手作りした向日葵のちぎり絵のカレンダーは、和みを感じられる。日々の生活の中にレクリエーション・ラジオ体操等が取り入れられ、身体機能の維持にも取り組んでいる。一人ひとりに合ったラジオ体操が行われ、利用者の自由な体操と笑顔が見られる。運営者はじめ全職員は地域密着型サービスケアの理念のもと、更なるケア向上の実践を目指し、取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、確実な申し送り等、具体的な改善に取り組んでいるが、改善方法や経緯が不明瞭である。今後は方法や経緯を記録してほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、運営者・管理者・計画作成担当者が意見交換して骨子を作り、全職員に意見を求め、その意見を取り入れて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は取り組みが始まったばかりのため、利用者、家族の現状や事業所の取り組み、外部評価について説明はしているが、双方向の意見の交換までには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会がある。運営規程に相談窓口や苦情受付を明記し、説明している。家族からの意見で、浴室入口を暖簾からロールカーテンへと改善し、着脱時のプライバシーがより守られる等、家族の意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	週1回、道路清掃や草取りを行い、年2回、保育園児や小・中学生との交流がある。また、年2回、保育園児の来訪がある。リサイクルの立ち当番を率先して行って近隣へ挨拶を交わし、事業所主催の夏祭りには、地域の人々の参加がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく地域密着型サービスの支援をし、このグループホームで良かったと心から思われるよう精一杯努力いたします」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員と共に毎朝の申し送りの際に理念の確認をしている。職員は言葉かけや態度など、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	週1回、道路清掃や草取りを行い、年2回、保育園児や小・中学生との交流がある。リサイクルの立ち当番を率先して行って近隣へ挨拶を交わし、事業所主催の夏祭りには、地域の人々の参加がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、運営者・管理者・計画作成担当者が意見交換して骨子を作り、全職員に意見を求め、その意見を取り入れて取り組んでいる。全職員は評価の意義を理解し、前回評価での改善課題について、確実な申し送り等、具体的な改善に取り組んでいるが、改善方法や経緯が不明瞭である。	○	外部評価の改善課題を書面化して、全職員で一つひとつの改善方法や経緯について具体的に意見交換し、協働しながら改善して、改善シートとして保存してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は取り組みが始まったばかりだが、利用者、家族の現状や事業所の取り組み、外部評価について説明はしている。しかし、双方向の意見の交換までには至っていない。	○	事業所からの報告だけでなく、事業所への要望・助言・提案などを委員から聞き出し、双方向で意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へ頻繁に出向き、相談や事業所の近況を伝えている。行政、事業所、介護相談員の三者意見交換会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を利用しているが、全ての職員への周知と活用には至っていない。成年後見制度について、研修の機会がない。	○	全ての職員が必要に応じて家族等に説明ができるように、外部研修または内部研修等を行い、知識の習得に努めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には暮らしぶりや身体状況等を報告している。また、月毎に担当者が一人ひとりの様子を手書きしてホーム便りとして、手渡ししたり郵送している。心身の変化時にはその都度電話連絡をし、金銭管理については、個別の出納簿に収支を明記し、家族のサインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がある。運営規程に相談窓口や苦情受付を明記し、説明している。家族からの意見で、浴室入口を暖簾からロールカーテンへと改善し、着脱時のプライバシーがより守られる等、家族の意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職の場合は、1ヶ月の引継ぎ期間を設け、その間、新任職員が馴染み、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。各ユニットでローテーションをし、馴染みの関係がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用は、性別・年齢で排除せず公平にし、笑顔や健康面、ケアが好きな人を重視している。配置や昇進、教育訓練等において、差別はない。その人の能力や適性を考慮し、職員が能力を発揮できる職場環境作りを心がけている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は職員に対し、利用者や家族、職員相互間の人権尊重の大切さを日常的に話し、指導をしている。しかし、人権教育や啓発活動の研修資料、テキストの保存がなく、内部研修の記録も確認できなかった。</p>	○	<p>全職員が外部または内部研修を受講し、人権教育、啓発活動の共通認識を持つよう取り組んでほしい。研修資料は、職員がいつでも確認できるように事業所で保管してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修を受講する機会を確保し、介護福祉士等を資格を取得できるように支援している。働きながら、看取り等のトレーニングしていくことも進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者及び管理者や職員は、他事業所と交流する機会を持ち、勉強会にてサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人宅へ管理者や職員が何回も出向き、馴染みの関係を築くよう配慮し、本人の見学の機会を多く持ち、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫や料理を教えてもらう等し、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握に努めている。希望、意向の把握が困難な場合は、利用者の表情や動き等、日々の関わりの中で、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等の意見及び職員の気づきや意見を反映して、利用者主体の介護計画を作成している。家族の了承したサインが確認できた。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の実施の効果を職員で検討し、見直している。状態変化時にはその都度見直し、家族等へ電話で報告して、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携が可能であり、病院への通院や送迎には、看護師が付き添っている。入院時には見舞いに行き、家族及び医療機関と連携して、退院会議に参加して、早期退院に向けて支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院には家族の希望と協力を得ながら、事業所の看護師が同行している。かかりつけ医とは、24時間適切な医療を受けられるよう関係づくりを行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び看取りに関する方針及び同意書を作成している。家族や医師・全職員で、何度も話し合い、ミーティングや学習会をし、その人らしい終末期のあり方について、本人・家族・かかりつけ医・職員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する同意書を作成し、利用者に対するプライバシーの尊重を心がけ、礼儀やさり気ない介助に配慮している。個人情報の取り扱いには注意をはらい、職員への意識化を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、レクリエーション等、職員の都合でなく、利用者の希望やペースにそって支援している。午後のラジオ体操も自由参加で、利用者は思い思いに自由に自分の時間を過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。また職員は利用者と同じものを食べ、さりげなく介助している。利用者の嗜好に合わせた食事を提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて、毎日入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には、時間帯を変えたりや、近くの温泉に行く等して、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活力や能力のあり方を把握し、カラオケ、習字、洗濯たたみ、花壇の花植え、料理等、一人ひとりに合った役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や利用者の状態を考慮して、利用者の希望にそって散歩や外気浴、買い物、ドライブ等を支援している。年3回は遠出をし、外食や温泉等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員の見守り等の工夫をし、日中は玄関を施錠していない。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防署と合同で訓練を行っている。災害マニュアルを作成し、避難場所や経路、連絡網等、職員は周知している。</p>	○	<p>今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品を準備してほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量を詳細に記録し、把握している。利用者一人ひとりに合った食事量を配膳している。栄養バランスについては、協力病院の栄養士に定期的に助言をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くてゆとりのあるホールには自然の明るさを取り入れ、季節の花をさり気なく随所に置き、使い勝手が良い高さや色合いの浴室は家庭的な雰囲気がある。テレビの音量や職員の声のトーンは適切であり、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・馴染みの整理筆筒・テレビ・植え木鉢・仏壇・小物などを持ち込み、自分の絵を壁に貼ったり、一人ひとり個性のある居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。